

# 平成28年度 積丹町功労者表彰式

～町振興への功績をたたえて～

## 町功労者3名を表彰



前列左より 戸来和子さん、鳴海みなさん、千葉十四男さん  
後列左より 田村副議長、松井町長、柳澤表彰審議委員長

平成28年度積丹町功労者表彰式が1月27日、総合文化センターで挙行されました。この表彰は、町の発展に功績のあった方や、スポーツ、文化等において優れた成績を収めた方などを表彰するもので、今年度は3名の方々が受賞され、松井町長から表彰状などが贈られました。この度の受賞を町民の皆さんとともに祝福し、今後ますますのご活躍を期待申し上げます。

### ◆積丹町社会貢献賞◆

鳴海 みなさん

(入舸町・85歳)

昭和59年から現在まで、入舸婦人会会長として、また、29年余にわたり積丹町女性団体連絡協議会役員を歴任され、地域の婦人会活動を実践指導され、本町の住民運動の推進に貢献されました。

戸来 和子 さん

(美国町・82歳)

平成4年から24年間にわたり、美国婦人会会長として、また、17年余にわたり、積丹町女性団体連絡協議会会長を歴任され、地域の婦人会の育成指導を通して、本町の行政の円滑な推進など自治の振興に貢献されました。

### ◆積丹町産業貢献賞◆

千葉 十四男 さん

(美国町・77歳)

平成6年から現在まで、積丹町商工会役員として、商工業の改善普及に尽力されました。また、29年余の長きにわたり美国商店連盟役員を歴任され、本町の産業の振興に貢献されました。

## ”交通事故死ゼロの日”

16年5カ月、6,000日 達成

去る1月18日に交通事故死ゼロ6,000日を達成した当町に、2月9日、総合文化センターで北海道知事からの感謝状と北海道交通安全推進委員会長からの表彰状が贈られ、橋本後志総合振興局長より松井町長へ伝達されました。

町議会議員や町交通安全指導員等が参列した伝達式では、賞状と記念品の伝達、橋本後志総合振興局長と丹保余市警察署長の祝辞に続き、松井町長が「更に記録を伸ばせるよう、町民一丸となって運動を続けていきたい。」と謝意を述べました。

この記録はオホーツク管内西興部村(8,037日(2月1日現在))に続く北海道第2位の記録で、夏場には札幌圏や道内外から大勢の観光客が訪れる

まちでありながら「交通事故死ゼロ」の記録を一日ずつ積み重ねる積丹町の交通安全への取組は、各機関から高い評価をいただいています。

平成12年8月16日から続いている「輪禍の無いまち積丹町」。今後もこの記録が続くよう町ぐるみで交通安全への取組を進めていきたいと思います。



▲左より 丹保余市警察署長、松井町長、橋本後志総合振興局長

# 始動！地方創生プロジェクト④

## 地域食材を活用した健康食開発の可能性調査

広報しゃこたん平成28年12月号に続いて、今回は、『積丹版「健康食」と運動プログラム開発によるしごと創生事業』の取組を紹介します。

初年度の平成28年度は、表のような大きく3つの構成で、関連する11の個別事業による可能性調査の検討が行われています。その主要な取組の状況をお知らせします。



### 「健康食開発」の中間報告会

老化防止や疲労回復に効果的な還元型コエンザイムQ10による健康効果の把握や様々な地域資源による健康食開発の可能性を考える「第1回積丹町健康づくりフォーラム」（主管・栗原クリニック東京・日本橋）が2月4日、総合文化センターで行われ、約50人が参加しました。

株式会社力ネカ（東京都）の宮越洋氏は、積丹町でとれた農水産物の中でも、ブリやサクラマスにコエンザイムQ10が多く含まれていることが初めて報告されました。

また、栗原クリニック東京・

日本橋歯科医師の栗原丈徳氏からは、特別養護老人ホーム「ゆるり」入居者や職員を対象としたモニター事業の中間報告がありました。昨年11月から2月までの約3カ月間、町生産活動センターで作られたホツケのすり身や白米に還元型コエンザイムQ10を混ぜた食事のほか、食べるお茶「イート茶」や株明治製菓提供の高濃度「ポリフェノールチョコレート」を食べてもらい、体調や生活リズムなどの観察をしました。

入居者のアンケート調査では、「寝付きが良くなった」や「会話の時間が増えた」などの効果が見られ、今後の健康食開発の可能性に期待が寄せられています。

### 漁協女性部も参画した試食会

フォーラム終了後には、講師とともに、東しゃこたん漁業協同組合女性部の方々も参加して、健康食開発に活用する加工食材の試食会を行いました。

町生産活動センターで作られたコエンザイムQ10入りのホツケのすり身汁やフレンチレスト

### 【平成28年度計画概要】

事業名	事業内容
<b>(1) 健康食開発</b>	
①健康食開発調査事業	・還元型 CoQ10 を活用した QOL 改善研究調査 ・食品分析調査
②高齢者健康 QOL 事業化調査事業	・健康 QOL 評価基準の設定 ・健康 QOL 普及ビジネス検討
<b>(2) 健康運動プログラム開発</b>	
①遠隔健康相談支援事業	・4 町村（喜茂別町、二セコ町、島牧村、積丹町）連携した遠隔健康相談
②疲労ストレス計購入	・疲労ストレス計等購入
<b>(3) ケア人材の確保・育成</b>	
①就業・研修助成事業	・町内介護福祉施設等の職員就業支援
②資格取得費助成事業	・介護職員初任者研修受講費の助成
③学生インターンシップ受入基盤整備事業	・学生インターンシップ受入基盤整備 ・研修センターの修繕、備品購入
④移住定住促進事業	・町 P R 用動画制作
⑤分譲地販売促進事業	・分譲地の販売促進等
⑥事業所用合併処理浄化槽設置助成事業	・事業所用浄化槽設置整備費の一部助成
⑦放課後児童健全育成事業	・放課後子ども支援事業
計画総事業費：34,520 千円（内、国交付金：24,500 千円）	

ランブラッスリーセルクル（札幌市）オーナーシェフの木村円氏が、マス、タラ、イカに還元型コエンザイムQ10を入れて作った「はんぺん」も提供されたほか、下瀬豆腐店（美国町）に協力いただき「イート茶入り豆腐」も紹介されました。その中で、味や見た目、食感などに

加え、地域加工の可能性も含めた今後の健康食開発に向けての意見交換が行われました。町では、積丹町の農水産物を活用した健康食開発の可能性を探るため、引き続き町外の専門分野で活躍している方々に参画していただき、この調査研究事業を進めていきます。

# 漁協なくして漁村なし

## 漁協職員の奮起に期待！

### 日本海漁業振興対策セミナーを開催

2月3日・4日の2日間、経済産業省北海道経済産業局・余市町・古平町・積丹町の共催、北海道後志総合振興局の後援で日本海漁業振興対策セミナーが開催され、小樽市・余市郡・東しやこたんの3漁協の販売・加工担当幹部職員や道漁連、市町村水産担当職員など約40人が水産物流通の現状と課題を共有し、その解決策を探りました。

日本海漁業の厳しい現状を打破し、漁村地域に活気をもたらすキーマンとして期待される漁協職員の研鑽の場として開催された本セミナーでは、講師のフードマネジメントサービス株式会社代表取締役の坂本文男氏と株式会社アットソリユーシヨンス会長の中込進氏による講演と参加者との意見交換が行われました。

講演の中で坂本氏からは「温暖化の影響や、資源の減少、漁協合併等による組織の弱体化等が問題になっている。漁協の各事業をどう展開していくかを考え、系統販売の環境の変化に適応したビジョンづくりを推進していかなければならない。」と今後の組合運営のあり方を、中込氏からは「日本は人口減少時代に入り、お金を使うシニア世代の世代交代や食文化の変化による魚離れが一層進み、日本のマーケットは厳しい状況下にあ



▲ 中込進氏



▲ 坂本文男氏

る。北海道の鮮魚を欲しがっているシンガポールやマレーシア、タイなど海外市場にも目を向けていかなければならない時期が来ている。」と流通・販売戦略についてのアドバイスがありました。

今回のセミナーを契機に、更なる漁協職員の熱い使命感の奮起が期待されます。

## 地元で獲れた魚を学ぶ

### 魚捌き教室を開催 —余別小学校—

2月21日、余別地区コミュニティセンターで余別小学校児童7人が「魚捌き体験」に挑戦しました。

地元漁師の飯田繁幸さんと担い手の若者、同校PTA(澤貴幸会長)が、学校(荒木俊行校長)と知恵を出し合い、念願の教室が実現したものです。

飯田さんからは、余別地区の伝統的な漁法「そこだてあみ底建網」が60mの海底に設置され真冬の大波にも耐えて魚を獲る漁具のしくみや、網の修理に使う『網み針』の使い方などを教わりました。

前日獲れた体長90cmのタラの捌き方では、包丁の使い方や内蔵一つひとつの名称、餌として胃袋に入っていたニシンのことなど水鳥町水産業技術指導員の説明を聞きながら、フライ用の切身づくりに苦戦する子どもたちの真剣な顔が印象的でした。

お母さんたちから「たらフライ」の衣付けの一連の調理方法を学んだ後の揚げたてをみんなで食べた味も最高の様子で、「大きなタラと大きな包丁は難しかったけれど楽しかった」、「漁師のお父さんや料理をつくるお母さんの苦勞がよくわかりました」などと感想を話してくれた1日でした。

